

2024(令和6)年5月31日

報道発表資料[本リリース発信元]ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

「音楽」を軸にした、ジャンルや固定観念にとらわれないパフォーマンスシリーズ第4弾



Sound Around 004

日常的な視点から音楽を解体・分析し、
音楽の起源を辿るパフォーマンス

あらきまさみつ
メインアーティスト: 荒木優光

2024年6月29日(土)、30日(日)
ロームシアター京都 ノースホール

[本リリースに関するお問合せ先]

ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 広報担当: 儀三武、加藤陸
電話: 075-771-6051 (10:00~17:00) FAX: 075-746-3366 E-mail: press@rohmtheatrekkyoto.jp

■本企画趣旨

Sound Around 第4回目のアーティストは、聴くことの創造性をユーモラスに追求し、パフォーマンスやインスタレーションなどの多岐にわたる作品を発表している荒木優光(あらきまさみつ)です。荒木はこれまで、音楽を活動の主体としながらもその周縁に立つことを起点にし、音に関する記憶や体験、環境に着目し、再度音楽と結びつけることで、わたしたちをとりまく「音」の文脈の再考を促してきました。独自の解釈とプロセスによって構築する空間は、音や映像、声、サイトスペシフィックな要素や環境を活用し、シアターピースやインスタレーション、パフォーマンス、ツアー、音源など多岐にわたる形態で発表されてきました。数々の多彩な活動のなかでも、一貫して荒木が基軸とするのは、我々を取り巻く音の総体について、身近な視点から分解・観察することでみえてくる「音-音楽」の境界を漂うことです。そこには、「音」になんらかの意味が兆すのは、リスナー(聞く側)の内がわであるという、ひとりひとりのパーソナルな次元で生じる「音」の情景への着目があります。

今回はシリーズ初の試みとして、音楽の経験・知識不問で公募した参加・出演者とともにワークショップを重ね、人間の日常の視点から「音-音楽」をとらえなおし、パフォーマンスへと結実させていきます。

■本企画のポイント

日常の視点から「音-音楽」をとらえなおし、パフォーマンスをたちあげる

今回は、特定の音楽の文脈や技術に限定されない、人間の日常性のなかにただよう「音-音楽」へのアプローチを試みます。どこかエスノグラファーや民族音楽研究者をほうふつとさせる手付きで、新たにパフォーマンスをたちあげていきます。

テーマである「げんし」には、あらゆるものの初めとしての「原始」、ものごとを構成する最小粒子としての「原子」、そして、パーソナルな記憶やイメージとその相違を連想させる「幻視」などの意味が、多義的に重なりあいます。本作のアーティストステートメントで、「家を建てることを全員が忘れてたら」と仮定しているように、プロセスを整然とさせる機能を持つ「目的」をいったん取り外すことで、あらたに有機的に浮かびあがってくるパフォーマンスとしてのサウンドスケープにご期待ください。

一般公募の参加者とワークショップを重ねてつくりあげるパフォーマンス作品

本企画では、シリーズ初の試みとして、パフォーマンス作品を共に立ちあげ、本番に出演する参加者を公募しました。音楽に関する経験・知識を問わず集まった10名前後の多彩な面々で、計3回にわたるレクチャー・ワークショップを行います。荒木優光によるレクチャーや、声楽家、俳優、ダンサー、管楽器奏者などがその時々刺激性的に場へと交わりながら進行する実験的なワークショップなど、ときに椅子やロープなどの道具を用いた実験的なプロセスが、バックステージを含めた劇場空間全体で、自由に展開されていきます。



<レクチャー・ワークショップの様子>

左: 第一回目のはじめに、荒木による「音・音楽」にまつわるレクチャーが行われた。

右: 第二回目は、複数人でおこなう遊戯のような実験や、ロープを使った実験が展開された。

■今作にあたってのアーティストステートメント

テーマ | げんし

原始 自然のまま、未発達、未開発、おおもと、はじめ

原子 最小の微粒子 アトム 事物を構成する微小存在

幻視 実際にはないものがあたかもあるように見えること

空き地は開かれる

空き地に家を建てるとなれば、その作業が始まる。工務店や建築士、大工さんなどがわらわらと来ることになる。そこで、家を建てることを全員が忘れてらどうなるだろうか、と想像してみたい。持ってきた資材はある。工具はある。防音シートもある。腕利きの大工さんも職人さんもいる。謎の図面もある。程なくして建築士や工務店の担当者も車でやってきて、ヘルメット被って、やはり空き地で全部忘れた。その時の、顔、佇まい、それぞれの立ち位置。ヘルメットとは、もちろん、帰ることもできる。でも、気になると思う。何故我々はここに来ているのか。帰らずに、その宙吊りにされた状態で「何か忘れてる気がするけど、思い出せず」に静かにもがき続けたい。電動ノコギリで木材を切り、立ててみたり、接合してみたり、転がしたり、時には数人でやってみたり。足場を組んで高い所で寝転んだり、工具を飾ってみたり、ただ電動ノコギリを回して皆で見たり、火花を楽しんだり…。そういった状態を、何だと言えようか。この、家になりそうな気配ムンムンで、家になり得そうにない、でも奇跡的に家になるかもしれない、ここへ、まずは行きたい。そうして当て所なく、狭間のような時空間で生じる音響・サウンドスケープは、我々にどのような幻視をもたらすのだろうか。

荒木優光

■Sound Around とは

2021年から始まった、ジャンルや固定観念にとらわれない「音楽」を軸にした表現活動を行うアーティストによるパフォーマンスを紹介するシリーズです。音楽をめぐる既存のジャンルを解体し、音楽を演奏・鑑賞する際のあらゆる枠組みを問い返し、周辺・周縁から、わたしたちと「音楽」との関係性を根本から思考しなおす公演を、毎年あたらしいアーティストと共に、制作・発表しています。

第1回目は作曲家兼パフォーマーユニット「いまいけぷろじえくと」をホストに迎え、コロナ禍で制限された「声／言葉」をテーマに、身体や声を通したパフォーマンスで新たな音楽の楽しみ方を提案しました。

第2回目は、モーターと養生テープを使用したサウンドパフォーマンスを行う気鋭のユニット「正直」をホストに迎え、「即興／変化」をテーマに、偶然の中から生まれ、変化していく音をインスタレーション形式で発表しました。

昨年第3回目は、「作曲(コンポジション)」をテーマに、日野浩志郎をメインアーティストに迎え、音が生まれ音楽として人々に届くまでの核となる「作曲」を改めて問い直しました。

Sound Around 001 2021年7月17日、18日

出演:いまいけぷろじえくと(今村俊博、池田萌) 共演:17日:長井短(演劇モデル)、18日:山下 残(振付家・ダンサー)、茂山千之丞(狂言師) トークゲスト:佐々木 敦(思想家)

Sound Around 002 2022年6月11日、12日

ホスト・出演:正直(小林椋、時里充) ゲスト:石若駿(打楽器奏者)12日のみ、金子智太郎(美学研究者)*11日のみ、THE COPY TRAVELERS(加納俊輔/迫鉄平/上田良)(美術家)、佐々木文美(セノグラファー)、前後(神村恵(ダンサー)+高嶋晋一(美術作家))、土方大(アーティスト/インストラー)、山田亮太(詩人)11日のみ

Sound Around 003 2023年6月24日、25日

メインアーティスト・構成:日野浩志郎、コラボレーションアーティスト:古館健、藤田正嘉、谷口かんな、前田剛史
音響:西川文章



(左) Sound Around 001 / (中央) Sound Around 002 / (右) Sound Around 003

左・中央 撮影:中谷利明 右 撮影:井上嘉和

■プロフィール



Photo:kai maetani

荒木優光/Masamitsu Araki

1981年山形県生まれ、京都市在住。アーティスト、音楽家、サウンドデザイナー。音楽を活動の主体としながらもその周縁に立つことを起点として、聴くことの創造性をユーモラスに追求し、再度音楽と結びつけることで文脈や効用の再考を促す。

独自の解釈とプロセスによって構築する音場空間は、音や映像、声、サイトスペシフィックな要素や環境を活用し、シアターピースやインスタレーション、パフォーマンス、ツアー、音源など多岐にわたる形態で発表されるが、総じて我々を取り巻く音の総体について、身近な視点から分解・観察することでみえてくる「音-音楽」の境界をともし漂うことを担保としている。

また、記録にまつわる参加型作業集団 ARCHIVES PAY(アーカイブスペイ)や音楽グループ NEW MANUKE(ニューマヌケ)

のメンバーとしての活動、サウンドデザイナーとして多様なアーティストとのコラボレーションも多く、各現場でのサウンド面での貢献を経て得た知見を自身の活動へと還元させている。

サイト: <https://www.masamitsuaraki.com/>

シアターピース・パフォーマンス

- 2023「Paradise Lost」SPA of Narratives 城崎国際アートセンター(兵庫)
- 2022《思弁的マンネリ解消プロジェクト トーキョーキングヘッズ》城崎国際アートセンター(兵庫)
- 2021「トワイライトゾーニング」京都市東九条地域、崇仁地域(京都) *ツアーパフォーマンス 小松千倫との共同プラン
- 2021「サウンドトラックフォーミッドナイト屯」KYOTO EXPERIMENT 2021 AUTUMN 比叡山山頂駐車場(京都)
- 2021「パブリックアドレス - 音場」KUNSTENFESTIVALDESARTS Petit Varie(ブリュッセル)
- 2021「ゾンビとサウンドトラック」京都市京セラ美術館 講演室(京都)
- 2020「ラウドアーカイブス 2020、パブリックアドレス - 音場 2020、増幅する部屋 2020」SCOOOL(東京)
- 2018「おじさんと海に行く話」京都芸術センター講堂(京都)
- 2018「増幅する部屋」愛知県芸術劇場 小ホール(愛知)
- 2018「池は聞いている(ため池サウンドコレクションより)」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館(香川)
- 2016「男と女のビッグエコー」京都芸術センターフリースペース(京都)
- 2014「パブリックアドレス - 音場 2」ST スポット横浜(神奈川)
- 2013「パブリックアドレス - 音場 2」アトリエ劇研(京都)
- 2009「@ アッチ & コッチ N 市からの呼び声」アトリエ劇研(京都)

個展

- 2022「ダンスしないか?」長野県立美術館 アートラボ(長野)
- 2022「そよ風のような、出会い」判断の尺度 Vol.3 gallery αM(東京)
- 2021「わたしとゾンビ」京都市京セラ美術館 ザ・トライアングル(京都)
- 2018「RECOLLECTION 36° × 139° 寿楽荘 その一日の誕生」浦和ふれあい館、寿楽荘(埼玉)
- 2016「Acoustic Device 騒音のための5楽章」トーキョーワンダーサイト本郷(東京)
- 2016「煙にまかれたアーカイブス」京都芸術センターフリースペース(京都)
- 2012「横断の調べ: 福島海岸へ釣りに行った男」にしすがも創造舎(東京)
- 2012「煙にまかれたジュークボックス」にしすがも創造舎(東京)

他、グループ展、企画、共同構成、サウンドデザインなど多数

■公演情報

公演名:Sound Around 004

日時:6月29日(土)17:00開演、6月30日(日)15:00開演 *30日託児サービスあり

上演時間:約1時間

会場:ロームシアター京都 ノースホール

メインアーティスト:荒木優光

出演:荒木優光、安藤衣利、片嶺穂乃佳、神林優美、工藤由晶、齊藤あかね、佐々木大空、高橋夏那、竹岡大志(声楽)、玉地未奈、中西笑美理、萩原凜(パーカッション)、波多野円香、福永ゆみ、堀内恵、松本宗大(サクソ)、馬淵紫保、諸江翔大朗、保井岳太、安永早絵子(※五十音順)

音響:甲田徹

アシスタント:松木萌、脇原大輔

主催:ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

助成:文化庁文化芸術振興費補助金、

劇場・音楽堂等機能強化推進事業(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)、

独立行政法人日本芸術文化振興会

■チケット情報／取り扱い

全席自由 一般 2,500円、ユース(25歳以下)1,500円、18歳以下 1,000円

※未就学児入場不可

※ユース・18歳以下チケット購入者は、公演当日、受付にて年齢が確認出来る証明書をご提示ください。

チケット取扱:

■オンラインチケット 24時間購入可 ※要事前登録(無料)

<https://www.s2.e-get.jp/kyoto/pt/>

■ロームシアター京都チケットカウンター

窓口・電話 TEL.075-746-3201

(10:00~17:00、年中無休 ※臨時休館日等により変更の場合あり)

■京都コンサートホールチケットカウンター

窓口・電話 TEL.075-711-3231

(10:00~17:00、第1・3月曜休 ※祝日の場合は翌日)

問合せ先:ロームシアター京都チケットカウンター TEL.075-746-3201

公演 WEB ページ:<https://rohmtheatrekkyoto.jp/event/120058/>

*公演に先立ち関連コラムをロームシアター京都ウェブマガジンにて掲載予定。